

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		スペースゆう (多機能型 放課後等デイサービス)				公表日	令和 8 年 3 月 31 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	トイレなど視覚的に配慮。活動の見通しがわかる予定表。着替えのパーテーション。「スペース」と「部屋」の使い分け。	今は必要性を感じないが、必要に応じてやる計画は出されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		コロナ期の学びとして、衛生面は気を付けていて、毎日の活動後にアルカリイオン水で空間の洗浄を意識している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	落ち着いて過ごすことができる場所を確保し、必要に応じてクールダウンや個別対応ができるよう環境を整えている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	6		毎週の定例会議 (ゆう会議)、毎日の午後イチ会議を通じて、広くスタッフが参画できる場を設けていて、即時実行ができる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		HPに掲載したページをスタッフ用のグループラインで共有することで、保護者・事業所の意見を確認。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	法人内での自己評価や職員会議、保護者評価の結果を共有しながら、支援内容や運営方法の改善につなげている。		

業務改善	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		内外部研修への参加を通して、支援技術や発達理解を深める機会を設けている。また復命研修を希望者参加型で行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		モニタリング時に簡単なアセスメントを行い、また支援計画作成時に確認をすることで丁寧に聞き取り、分析を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発管だけに偏らないよう、ケース会議で複数職員が関わり、過去モニタリング等の内容を共有しながら支援計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	独自アセスメントシートを作成し、インフォーマルアセスメントを強化。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインの「本人支援・家族支援・移行支援・地域連携」を踏まえ、子どもの実態に合わせた具体的な支援内容を計画に反映している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動内容はチームで検討し、経験年数に関わらずスタッフの意見や感性も取り入れながら、安全面にも配慮して多様な活動にチャレンジしている。また、子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、活動が固定化しないよう工夫している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2		活動終了後の振り返りは行っているが、時間的制約により十分に共有できない場合もあるため、グループLINEを利用している。

適切な支援の提供	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			毎日の活動に日常動作・創作活動・余暇を組み込み、全日活動ではより地域交流のイベント色を出してそれぞれ盛り込んでいる。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			配車やおやつ選択など、自己決定する場面は至る所に散りばめている。また子ども会議を行い、おやつやイベントの選択もあり。
関係機との連携や保護者	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			基本的に児発管および管理者、場合によってOJT期間の児発管も参画している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			時間帯の難しさもあるが、学校とは地域的に密な連携支援が始まっている。新たに保健師や他福祉サービスとの連携も始めた。
関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2		横連携として学校や医療機関等との関係機関とのやりとりが増えてきた。今後縦連携にもつなげていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		今年度は3月に入って就労企業と情報共有や支援の引き継ぎをより丁寧に行える体制づくりを進めていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			児発管部会をうまく活用しながら、研修等で学んできたものの復命周知をする場を作った。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		今後増やしていきたい。地域施設との交流の機会は少ないので、地域行事や施設交流などを通して機会を増やしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			児発管が協議会主催の児発管WGに参加している。

関係機 との連 携や保 護者	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		以前親の会でやっていたが、保護者から再開希望の声がある。より多くの保護者が参加しやすい形について今後検討していく。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	日々の連絡や面談を通して保護者と子どもの様子を共有し、同じ方向性で支援できるよう関係づくりを大切にしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	2	施設長が各親の会に参加している。	法人主催の親の会（ひつじの会）をコロナ禍で今後再開予定。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	1	子どもの理解度や特性に応じて、視覚的な手がかりや具体的な言葉がけを用いながら、安心してやり取りができるよう配慮している。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		お花見や花火など地域との交流の機会を検討、子どもたちが地域の中で活動できる場づくりにつなげていきたい。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			次年度より、各事業所に委員会を立ち上げ、それによって法人内での周知を目指した研修・訓練・研修を開催予定。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			保護者と医師の診断に基づいた確認を随時行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		安全計画に基づく取組を実施しているが、より実践的な訓練や職員間の確認を通して、安全意識の向上を図っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1		組織としての判断基準を共有しているが、今後も職員研修等を通して理解を深め、適切な対応を徹底していく。	